

春秋戦国期の燕国における 初期鉄器と東方への拡散

Iron Objects of the Yan Guo and Liaoning Area
in the Spring and Autumn Warring States Period, and
Expansion to the Eastern Area around Korea and Japan

石川岳彦・小林青樹

ISHIKAWA Takehiko and KOBAYASHI Seiji

はじめに

- ① 燕下都遺跡出土鉄器の年代と変遷
- ② 遼西・遼東における初期鉄器の様相
- ③ 清川江以北及び豆満江流域の韓半島における初期鉄器の様相
- ④ 清川江以南の韓半島における初期鉄器の問題
- ⑤ 韓半島における鏹(鉄斧)
- ⑥ 韓半島における初期鉄器の器種組成
- ⑦ 韓半島における初期鉄器の年代
- ⑧ 日本列島における初期鉄器の特徴
- ⑨ 鑄造鉄器の破損品の入手経路
- ⑩ 燕国の領域支配の拡大と初期鉄器の拡散の問題

おわりに

[論文要旨]

本研究は、春秋戦国期の燕国の鑄造鉄器を中心とした初期鉄器文化が、燕国の支配が及んだ領域である遼寧(遼西・遼東)から韓半島北部の清川江以北一帯に拡大していく様相を整理し、さらにこの範囲を越えて初期鉄器が拡散した清川江以南の韓半島、そして日本列島での様相を考察したものである。燕国における初期鉄器文化の様相は、燕下都遺跡における分析から、遅くとも紀元前5世紀には非利器を中心とする日用品などの鉄器化から始まり、次第に利器へも鉄利用が進む様相がみられる。その中でも利器としては鉄斧の出現が最も早く、武器への鉄利用が比較的遅れる状況は興味深い。燕国の遼寧地域への進出は、紀元前6世紀後半以後に顕著になり、紀元前400年頃には、遼西と遼東の遼東半島を除く平野部には燕国の領域支配が及び、紀元前4世紀後半には遼東半島の先端部や遼東山地にまで燕国の領域支配が及び、これらの地域に鉄器文化がこの時期には広がっていたと考える。また、清川江以北の韓半島では、龍淵洞遺跡などの分析から遅くとも前3世紀頃までには鉄器文化が及んでいた。これに対して、燕国の領域支配の外縁地域である清川江以南の韓半島には前4世紀以前には鉄器文化が広がり、そして日本列島でも前4世紀代には鉄器文化が受容された。こうした初期鉄器の器種構成は、燕国の領域支配が及んだ地域ではほぼ同一をなすが、韓半島と日本では、工具中心で特に農具類が著しく欠如した組成を形成する。日本列島では、特に鏹(鉄斧)の破片を燕国の領域支配の地域から手に入れ、再加工作る事例が多い。その一方、北部九州の有明海周辺地域を中心に燕国産の舶載鑄造鉄器を入手し副葬するなど、すでに北部九州の地域集団は燕国との何らかの関係を構築していた可能性がある。以上の検討から、今後、弥生時代中期中葉頃以前の鉄器資料群は、新しい弥生年代観によれば、戦国時代の燕国や統一秦時代、そして前漢時代の前半期のものに相当する可能性があり再検討が必要となった。

【キーワード】 鉄器、弥生文化、燕国、燕下都、韓半島